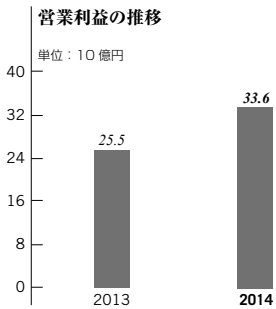
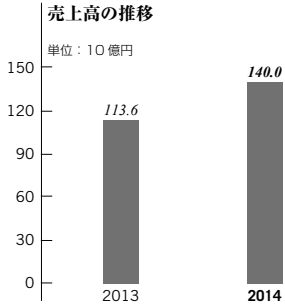
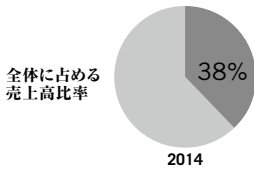


機械加工品事業



当会計年度の機械加工品事業の売上高は140,033百万円となり、前会計年度に比べ26,460百万円(23.3%)の増収となりました。営業利益は、33,551百万円と前会計年度に比べ8,092百万円(31.8%)の増益となり、売上高営業利益率は24.0%と前会計年度に比べ1.6ポイント上昇しました。世界の景気回復による販売の増加や、稼働率上昇による単位製造コストの低減に加え、為替レートの追い風もあり、大幅な増収増益を達成しました。

主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率 ^(注)
ミニチュア・小径ボールベアリング	各種小型モーター、家電、情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	50%
ファスナー	航空機、自動車	—
ピボットアッセンブリー	HDD	75%

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

事業詳細

主力製品であるミニチュア・小径ボールベアリングは、自動車、OA機器、家電製品など幅広い分野で需要が拡大し、外部販売数量が好調に伸長しました。収益面では、稼働率の上昇やアジア通貨安による製造コストの低下により、利益率が改善し、増販効果と相まって増益となりました。ロッドエンドベアリング&スフェリカルベアリングは、新型機への更新等で民間航空機需要が堅調に推移する中で受注が増加したのに加え、円安の効果もあり、売上、利益とも増加しました。ピボットアッセンブリーは、需要先であるHDD市場が安定推移した結果、当社も安定生産のもとコスト削減が進展し、利益率の改善が進みました。

ボールベアリング事業では、歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っております。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化を図りながら、基礎技術開発部門の強化も図っております。今後につきましては、「5本の矢」戦略の第一の矢に掲げた外部販売数量(月平均)1億5千万個の早期達成に向けて拡販に努めてまいります。また、2013年7月に買収したセロベア社の高いセラミックベアリング技術を応用した製品開発を進め、航空宇宙産業向けのビジネスをより強化してまいります。

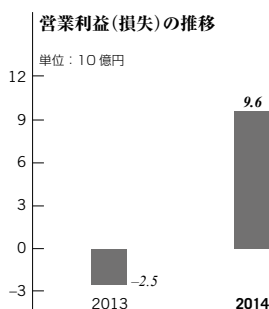
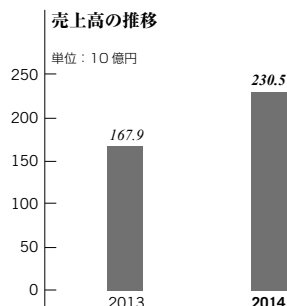
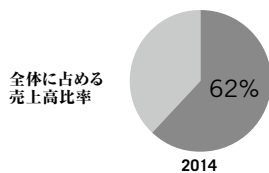
ロッドエンド・ファスナー事業では、タイにおける半製品の生産能力の拡大で全体コストの削減を追及していきます。また日本、米国、英国、タイの4生産拠点のシナジーを追及し収益力の強化を図ってまいります。

ピボットアッセンブリー事業では、歩留まり向上など継続的な原価低減と増産対応を図っております。ピボットアッセンブリーでの当社の高いシェアとミニチュア・ボールベアリングでのシナジーを生かしながら、収益水準の維持に努めてまいります。

主要製品

ボールベアリング ロッドエンドベアリング スフェリカルベアリング ローラーベアリング プッシング
ピボットアッセンブリー メカニカルアッセンブリー 航空機用ネジ類 自動車用ネジ類

電子機器事業



当会計年度の売上高は230,514百万円と前会計年度に比べ62,603百万円(37.3%)の大幅な増収となりました。営業利益は9,582百万円と前会計年度に比べ12,034百万円の増益となりました。売上高営業利益率は4.2%と前会計年度より5.7ポイント改善しました。

液晶用バックライトは、スマートフォン向けを中心とした需要が拡大する中で、当社に優位性のある超薄型の導光板がハイエンド製品向けに急伸し、顧客層の増加とシェア拡大に伴い、売上、利益ともに前会計年度に比べ大幅に増加しました。HDD用スピンドルモーター及び情報モーターは、売上の増加と前会計年度に実施した事業構造改革の効果により業績の改善が進みました。特に情報モーターは、世界経済の回復による需要の増加に加え、生産効率の改善やカンボジア工場への生産移管によるコスト競争力の強化に努めた結果、第2四半期より黒字転換し、その後も順調に業績の改善が進みました。計測機器も試験装置の需要回復と自動車向け販売が増加し業績は堅調に推移しました。

主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
液晶用LEDバックライト	携帯電話、自動車、デジタルカメラ、デジタル携帯端末 ハイエンドスマートフォン	12% 70%
情報モーター (ステッピングモーター、DCブラシレスモーター DCブラシ付モーター、ファンモーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、自動車、産業機械、 OA機器	製品により 2～70%
HDD用スピンドルモーター	HDD	—
精密モーター	自動車	—
計測機器	産業機械、自動車	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

事業詳細

液晶用バックライトは売上高の約80%を占める携帯電話、スマートフォン向けを中心に売上高が急速に拡大しました。主要顧客の供給シェア拡大に加え、中国を中心とした顧客層の拡大策が奏功し、大幅な増収増益を達成しました。HDD用スピンドルモーター及び情報モーターは、前会計年度に実施した事業構造改革の効果によりコスト削減が進展しました。一方で、世界経済の回復により売上高も増加し、業績の改善が進み、第2四半期に黒字転換を果たして以降は継続して黒字を維持し、通期でも黒字となりました。計測機器は試験装置、自動車向けともに販売が回復し業績は好調に推移しました。

液晶用バックライトは、当社が得意とする超薄型の導光板に対する需要が急拡大しています。こうした顧客からの需要に応じるため、中国、カンボジア、タイの工場で生産能力の拡大を図っております。また、2014年4月には岩崎電気株式会社、コイズミ照明株式会社とスマートビル及びスマートシティ向け照明設備の開発を目的とした合弁会社MIK Smart Lighting Networkを設立しました。当社の電子デバイス部門、技術開発部で開発した街路灯を含む照明器具、およびその部品の事業基盤を早期に確立し、「5本の矢」戦略の第3の矢である照明器具関連製品の拡販を図ります。情報モーターはモアテック社、及びファンモーターの構造改革を進め、さらなる収益改善を進めます。

計測機器については、単なるハカリとしてではなく、計測機器のセンサーとしての機能を再確認した事業戦略に基づき、医療・介護関連市場、ロボット分野、橋梁などのインフラ構造など新しい分野への展開を図り、売上を早期に年間200億円程度に引き上げるよう努めてまいります。

主要製品

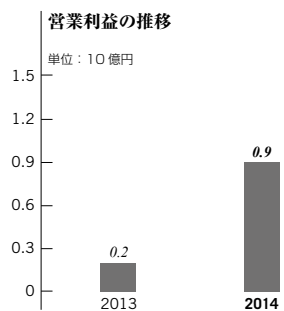
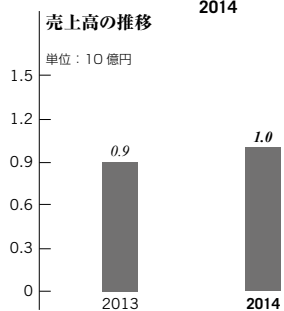
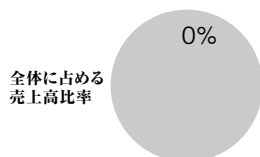
LEDバックライト 複合製品 ステッピングモーター DCブラシレスモーター DCブラシ付モーター
ファンモーター HDD用スピンドルモーター 精密モーター 計測機器

その他の事業

当会計年度の売上高は996百万円と前会計年度に比べ71百万円(7.7%)の増収となりました。営業利益は866百万円と前会計年度に比べ699百万円の増益となりました。売上高営業利益率は86.9%と前会計年度より68.8ポイント改善しました。

主要製品

金型 内製部品



調整額

上記以外に、各セグメントに帰属しない全社費用等 11,800百万円を調整額として表示しております。前会計年度の調整額は13,005百万円でした。